



インストール後のタスク

- [Cisco Unified Communications Manager のインストール後の作業](#) (1 ページ)
- [IM and Presence Service のインストール後の作業](#) (17 ページ)
- [次の作業](#) (18 ページ)

Cisco Unified Communications Manager のインストール後の作業

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|--|--|
| ステップ 1 | リリースノートおよびリリースに付属している README ファイルを読みます。 | リリース ノートは、次の URL からダウンロードできます。リリースおよび任意の COP ファイルの要件の特徴を理解してください。 https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-release-notes-list.html |
| ステップ 2 | 将来のアップグレードと COP インストールで利用できるクラスタノードでソフトウェアの場所を構成します。 | クラスタノードをアップグレードするか、クラスタノードに COP ファイルをインストールする前に、すべてのクラスタノードで [ソフトウェアの場所 (Software Location)] フィールドを構成する必要があります。ソフトウェアの場所の設定の詳細については、 Upgrade and Migration Guide for Cisco Unified Communications Manager and the IM and Presence Service, Release 12.5(1)SU6 の「Configure Cluster Software |

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|---------|--|--|
| | | Location」セクションを参照してください。 |
| ステップ 3 | アプリケーションユーザのパスワードをリセット (4 ページ) | インストール後には、アプリケーションユーザのパスワードをリセットすることを推奨します。 |
| ステップ 4 | Real-Time Monitoring Tool のインストール (4 ページ) | Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT) を使用して、Unified Communications Manager と IM and Presence Service をリアルタイムでモニタできます。 |
| ステップ 5 | Kerneldump ユーティリティの有効化 (7 ページ) | カーネルクラッシュがあれば、kerneldump ユーティリティから、クラッシュの収集およびクラッシュをダンプするメカニズムを利用できます。 |
| ステップ 6 | ライセンスのインストール (7 ページ) | システムおよびデバイスに必要なライセンスがあることを確認します。 |
| ステップ 7 | バックアップの設定 (8 ページ) | 定期的にバックアップを行うことを推奨します。自動バックアップをセットアップすることも、任意の時点でバックアップを起動することもできます。 |
| ステップ 8 | 新しいロケールのインストール (9 ページ) | オプション。デフォルトのロケールは英語です。別のロケールを使用する場合は、ダウンロードしてインストールします。 |
| ステップ 9 | COP ファイルのインストールのガイドライン (12 ページ) | 既知の不具合を修正する、または Unified Communications Manager に含まれていない、使用したいカスタムデバイスのタイプに対するサポートを有効にするには、インストール後に COP ファイルをインストールする必要があります。 |
| ステップ 10 | ダイヤルプランをインストールするには、次のタスクを完了します。 <ul style="list-style-type: none"> • COP ファイルのインストール (13 ページ) • 事前作成済みダイヤルプランのインストール (14 ページ) | 北米番号計画 (デフォルト) 以外の北米のダイヤルプランを使用する場合は、ダウンロードしてインストールする必要があります。 |

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|---------|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager サービスの再起動 (14 ページ) | |
| ステップ 11 | セキュリティの有効化 (15 ページ) | オプション。システムでセキュリティを有効にする場合、Cisco CTL クライアントをインストールし、混合モードを有効にします。 |
| ステップ 12 | 簡易ネットワーク管理プロトコルの設定 (15 ページ) | オプション。Cisco Prime Collaboration 保証などのネットワーク管理システムを使用している場合は、Simple Network Management Protocol を有効にします。 |
| ステップ 13 | 仮想マシン構成仕様の変更 (16 ページ) | Cisco Unified Communications Manager 仮想マシン (VM) 設定でゲスト OS バージョンに変更するには。 |
| ステップ 14 | HTTP リファラー/ホストヘッダーでホストの信頼できるリストを設定し、Cisco Unified CM 管理の [エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)] ページでパブリック IP アドレスまたは DNS エイリアスを追加していることを確認してください。 | <p>この構成は、ネットワーク トポロジに、クラスタ内の個々のノードのプライベート IP アドレスとともに外部インターフェイス用に設定されたパブリック IP アドレスがある場合に必要です。それから Unified CM は、Unified CM へのアクセスを許可する前に、最初に Unified CM クラスタで設定されたサーバーを使用して、ホストヘッダーに存在する IP アドレスまたはホスト名を検証します。また、Unified CM へのアクセスに使用される DNS エイリアスを、ホストの信頼済みリスト設定で設定する必要があります。たとえば、サーバーが <code>cm1.example.local</code> であり、<code>phone.example.local</code> を使用してサーバーにアクセスする場合、<code>phone.example.local</code> をホストの信頼済みリスト設定に追加する必要があります。</p> <p>プライベート IP アドレスを使用するプライベート ネットワークから、Cisco Unified CM の管理ユーザー インターフェイスに移動し、[システム (System)] > [エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)] を選</p> |

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--|--------------|--|
| | | <p>択して、使用する外部IPアドレスまたはDNSエイリアスを設定します。</p> <p>このアクティビティの実行後には、すべてのWebページが正しくロードされるようにCisco Tomcatサービスを再起動する必要があります。</p> |

アプリケーションユーザのパスワードをリセット

インストールプロセスでは、すべてのアプリケーションユーザのパスワードが、インストール中に入力した同じデフォルトのアプリケーションユーザのパスワードに設定されます。インストール後にこれらのパスワードをすべてリセットすることを推奨します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[**ユーザ管理 (User Management)**] > [**アプリケーションユーザ (Application User)**] を選択します。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** アプリケーションユーザーをクリックします。
アプリケーションユーザの詳細は、[**アプリケーションユーザ設定 (Application User Configuration)**] ウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** [パスワード (Password)] と [**パスワードを確認 (Confirm Password)**] フィールドの両方に新しいパスワードを入力します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6** アプリケーションユーザごとに、この手順を繰り返します。
-

Real-Time Monitoring Tool のインストール

この手順を使用して、Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT) をインストールします。RTMT を使用して、リアルタイムで Unified Communications Manager と IM and Presence Service をモニタすることができます。

始める前に

- Unified RTMT を Windows OS プラットフォームで実行するには、少なくとも 128 MB のメモリが必要です。Windows/Linux OS プラットフォームでツールを実行するには、少なくとも 300 MB のディスク領域が必要です。



(注) Linux Unified RTMT プラグイン CcmServRtmtPlugin.binは、RHEL 5、RHEL 6 以上の Linux マシンにインストールできます。RHEL 4 マシンにインストールする場合は、glibc (OS ライブラリ) のバージョンが 2.4.x 以上であることを確認してください。glibc バージョンが 2.3.x 以前の場合、基盤となる JRE のインストールが失敗します。

- 現在の Unified RTMT Download は、Unified Communications Manager または Cisco Unity Connection の以前のリリースをサポートしています。Unified Communications Manager のリリースは、Unified RTMT のバージョンが異なるコンピュータ (Unified Communications Manager リリースごとに 1 個のバージョン) にインストールする必要があります。インストールする Unified RTMT バージョンが、モニタ対象の製品と互換性があることを確認します。使用している Unified RTMT バージョンがモニタ対象のサーバと互換性がない場合、互換性のあるバージョンをダウンロードするように求められます。
- コンピュータでは、実行する Unified RTMT の最後のインスタンスに基づいて、IP アドレスや Unified RTMT フレーム サイズなどのユーザ設定を保存します。



(注) 標準監査ユーザと Standard CCM Super Users の権限を持つ管理者だけが Unified RTMT 機能にアクセスできます。これらの権限のないアプリケーションユーザが Unified RTMT にログインした場合、コール制御検出 (CCD) や Service Advertisement Framework (SAF) などの機能の一部は期待どおりに機能しません。



(注) Linux ワークステーションでは、ルートアクセスを使用して RTMT を実行します。そうしない場合、最初に RTMT をインストールするときに、アプリケーションが起動しません。

- 現在の Unified RTMT では、JRE を実行する必要があります。システムに JRE がインストールされていることを確認します (Java 1.8)。

手順

ステップ 1 設定の管理インターフェイスの [プラグイン (Plug-ins)] ウィンドウに移動します。

| インターフェイス | アクセス方法 |
|--------------------------------|---|
| Unified Communications Manager | Unified Communications Manager Administration から、[アプリケーション (Application)] > [プラグイン (Plugins)] を選択します。 |

| インターフェイス | アクセス方法 |
|---|---|
| Unified Communications Manager IM and Presence Service | Unified Communications Manager IM and Presence Administration から、[アプリケーション (Application)] > [プラグイン (Plugins)] Plugins を選択します。 |
| Cisco Unity Connection | Cisco Unity Connection Administration から、[システム設定 (System Settings)] > [プラグイン (Plugins)] を選択します。 |

ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 3 Microsoft Windows オペレーティングシステムを実行しているクライアントで Unified RTMT をインストールするには、[Real-Time Monitoring Tool - Windows] の [ダウンロード (Download)] リンクをクリックします。

Linux オペレーティングシステムを実行しているクライアントで Unified RTMT をインストールするには、[Real-Time Monitoring Tool - Linux] の [ダウンロード (Download)] リンクをクリックします。

ヒント Windows 7 以降で Unified RTMT をインストールするときは、管理者としてインストールを実行してください。

ステップ 4 クライアント上の優先ロケーションに実行可能ファイルをダウンロードします。

ステップ 5 Windows バージョンをインストールするには、デスクトップ上に表示される Unified RTMT アイコンをダブルクリックするか、ファイルをダウンロードしたディレクトリを見つけて Unified RTMT インストール ファイルを実行します。

抽出プロセスが開始されます。

ステップ 6 Linux バージョンをインストールするには、ファイルに実行権限があることを確認します。たとえば、コマンド `chmod +x CcmServRtmtPlugin.bin` (大文字と小文字を区別) を入力します。

ステップ 7 Unified RTMT のようこそウィンドウが表示されたら、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 8 ライセンス契約書を承認するには、[使用許諾契約書の条項に同意します (I accept the terms of the license agreement)] をクリックし、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 9 Unified RTMT のインストール画面にプロンプト表示されるように、システムから実行可能な Java 仮想マシンの絶対パスを選択します (JRE インストール済みディレクトリからの `java.exe`、これは最新バージョン 1.8 です)。

ステップ 10 Unified RTMT をインストールする場所を選択します。デフォルトの場所を使用しない場合は、[参照 (Browse)] をクリックして別の場所に移動します。[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 11 インストールを開始するには、[次へ (Next)] をクリックします。

[セットアップステータス (Setup Status)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 12 インストールを完了するには、[完了 (Finish)] をクリックします。



(注) Real-Time Monitoring Tool の使用法の詳細については、*Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide*を参照してください。

Kerneldump ユーティリティの有効化

次の手順を利用して Kerneldump ユーティリティをイネーブル化します。カーネルクラッシュが発生した場合、ユーティリティは、クラッシュの収集とダンプのメカニズムを提供します。ローカルサーバまたは外部サーバにコアをダンプするユーティリティを設定できます。

手順

ステップ 1 コマンドライン インターフェイスにログインします。

ステップ 2 次のいずれかを実行します。

- ローカルサーバ上のカーネルクラッシュをダンプするには、`utils os kernelcrash enable` CLI コマンドを実行します。
- 外部サーバにカーネルクラッシュをダンプするには、外部サーバの IP アドレスを指定して `utils os kerneldump ssh enable <ip_address>` CLI コマンドを実行します。

ステップ 3 サーバをリブートします。

ライセンスのインストール

必要なライセンスを取得します。

Unified Communications Manager の要件

Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトを使用して、Unified Communications Manager のライセンスを管理します。ライセンスを取得する方法の詳細については、『[Cisco Unified Communications Manager システム設定ガイド](#)』の「スマートソフトウェアライセンシング」の章を参照してください。

IM and Presence Service の要件

IM and Presence Service には、サーバのライセンスまたはソフトウェアバージョンのライセンスは必要ありません。

バックアップの設定

定期的にバックアップを行うことを推奨します。ディザスタリカバリシステム (DRS) を使用して、クラスタ内のすべてのサーバのデータを完全にバックアップできます。自動バックアップをセットアップすることも、任意の時点でバックアップを起動することもできます。

手動バックアップを開始するか、バックアップ スケジュールを設定できます。詳細については、[Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド](#)の「システムのバックアップ」の章を参照してください。

ロケールのインストール

複数の言語をサポートする Unified Communications Manager と IM and Presence Service を設定できます。インストール可能なサポート言語の数に制限はありません。

Cisco は、ロケール固有のバージョンの Unified Communications Manager のロケールインストーラと IM and Presence Service のロケール インストーラのロケール固有のバージョンを用意しています。このロケールインストーラはシステム管理者がインストールします。このインストーラを使用すると、ユーザがサポートされているインターフェイスを使用するときに、選択した翻訳済みテキストまたはトーン（使用可能な場合）を表示または受信できます。

Unified Communications Manager または IM and Presence Service をアップグレードする場合、アップグレードと移行をすべて完了した後にロケールをインストールする必要があります。アップグレードの場合は、デフォルトでインストールされている英語（米国）を除き、使用しているロケールをすべて再インストールする必要があります。Unified Communications Manager ノードまたは IM and Presence Service ノードのメジャーおよびマイナー バージョン番号と一致する最新バージョンのロケールをインストールしてください。

クラスタの各ノードに Unified Communications Manager をインストールし、データベースをセットアップしてから、ロケールをインストールします。IM and Presence Service のノードで特定のロケールをインストールする場合は、最初に Unified Communications Manager のクラスタで同じ国の Unified Communications Manager のロケール ファイルをインストールする必要があります。

ソフトウェアのアップグレードが完了した後に、Unified Communications Manager のノードと IM and Presence Service ノードでロケールをインストールするには、次の項の情報を使用します。

ユーザ ロケール

ユーザ ロケール ファイルは、特定の言語と国に関する言語情報が含まれます。ユーザ ロケール ファイルは、ユーザが選択したロケールの電話機表示用の翻訳済みテキストとボイス プロンプト（使用可能な場合）、ユーザ アプリケーション、および Web ページを提供します。これらのファイル名の表記は、次のとおりです。

- `cm-locale-language-country-version.cop` (Unified Communications Manager)
- `ps- locale-language_country-version.cop` (IM and Presence Service)

ネットワーク ロケール

ネットワーク ロケール ファイルは、電話トーン、Annunciator、ゲートウェイ トーンなど、さまざまなネットワーク項目の国固有のファイルを提供します。複合ネットワーク ロケール ファイル名の表記は、次のとおりです。

- `cm-locale-combinednetworklocale-version.cop` (Unified Communications Manager)

1つのロケールインストーラに複数のネットワーク ロケールが組み合されている場合があります。

ロケール ファイルは、ソフトウェア アップグレードをインストールする場合と同じプロセスを使用して、ローカル ソースまたはリモート ソースからインストールできます。クラスタの各ノードに、複数のロケールファイルをインストールできます。クラスタ内のすべてのノードをリブートしないと、変更は有効になりません。クラスタ内のすべてのノードですべてのロケールのインストールが終了するまで、ノードをリブートしないように強くお勧めします。通常の業務時間後にノードをリブートして、コール処理の中断を最小限にとどめてください。

新しいロケールのインストール

Unified Communications Manager または IM and Presence Service に新しいロケールをインストールするには、次の手順に従います。両方の製品用のロケールをインストールする場合、次の順番で、すべてのクラスタ ノードでロケールをインストールします。

1. Unified Communications Manager パブリッシャ ノード
2. Unified Communications Manager サブスクリイバ ノード
3. IM and Presence データベース パブリッシャ ノード
4. IM and Presence サブスクリイバ ノード

始める前に

新しいロケールをインストールする前に、すべてのクラスタ ノードで Unified Communications Manager または IM and Presence Service のインストールまたはアップグレードを完了していることを確認してください。

手順

ステップ 1 Cisco.com でリリース用のロケール インストーラを検索します。

- Unified Communications Manager の場合は、次に移動します。 <https://software.cisco.com/download/navigator.html?mdfid=268439621&i=rm>
- IM and Presence Service については、次の URL を参照してください。 <https://software.cisco.com/download/navigator.html?mdfid=280448682&i=rm>

ステップ 2 リリースのロケールのインストーラを、SFTP をサポートするサーバにダウンロードします。

- ステップ3** 管理者アカウントを使用して、[Cisco Unified OS の管理 (Cisco Unified OS Administration)] にログインします。
- ステップ4** [ソフトウェア アップグレード (Software Upgrades)] > [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] を選択します。
- ステップ5** [ソフトウェアのインストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade)] ウィンドウで、次のフィールドに値を入力します。
- [ソース (Source)] で、[リモート ファイル システム (Remote File System)] を選択します。
 - [ディレクトリ (Directory)] に、ロケールインストーラを保存したディレクトリへのパスを入力します。
 - [サーバ (Server)] フィールドに、リモートファイルシステムのサーバ名を入力します。
 - リモートファイルシステムのクレデンシャルを入力します。
 - [転送プロトコル (Transfer Protocol)] ドロップダウンリストから [SFTP] を選択します。転送プロトコル用に SFTP を使用する必要があります。
- ステップ6** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ7** サーバ上でロケールをダウンロードしインストールします。
- ステップ8** サーバを再起動します。更新は、サーバの再起動後に有効になります。
- ステップ9** すべての Unified Communications Manager および IM and Presence Service クラスタノードで、所定の順にこの手順を繰り返します。



- (注) 新しいロケールが、すべてのクラスタノードにインストールされるまで、エンドユーザのユーザロケールをリセットしないでください。Unified Communications Manager および IM and Presence Service の両方のロケールをインストールする場合、ユーザロケールをリセットする前に、両方の製品のロケールをインストールする必要があります。IM and Presence Service のロケールインストールが完了する前に、エンドユーザが電話言語をリセットした場合に起こりうる問題など、何らかの問題が発生した場合は、セルフケアポータルで電話言語を英語にリセットしてもらいます。ロケールのインストールが完了すると、ユーザは電話言語をリセットするか、一括管理を使用してロケールを一括して適切な言語に同期させることができます。

次のタスク

すべてのクラスタノードでロケールのインストールが完了したら、エンドユーザは新しいユーザロケールの使用を開始できます。

エラーメッセージ

ロケールインストーラをアクティブ化するときに発生する可能性のあるメッセージの説明については、次の表を参照してください。エラーが発生した場合は、インストールログにあるメッセージを表示できます。

表 1: ロケール インストーラのエラー メッセージと説明

| メッセージ | 説明 |
|--|---|
| [LOCALE] File not found: <language>_<country>_user_locale.csv, the user locale has not been added to the database. | データベースに追加するユーザ ロケール情報が格納されている CSV ファイルが見つからない場合にこのエラーが発生します。これはビルドプロセスのエラーを示しています。 |
| [LOCALE] File not found: <country>_network_locale.csv, the network locale has not been added to the database. | データベースに追加するネットワーク ロケール情報が格納されている CSV ファイルが見つからない場合にこのエラーが発生します。これはビルドプロセスのエラーを示しています。 |
| [LOCALE] Communications Manager CSV file installer installdb is not present or not executable. | このエラーが発生するのは、installdb を呼び出した Unified Communications Manager アプリケーションが存在する必要があるためです。このアプリケーションが CSV ファイルに含まれる情報を読み取り、Unified Communications Manager データベースに正しく適用します。このアプリケーションが見つからない場合は、Unified Communications Manager と共にインストールされていない（可能性は非常に低い）、削除された（可能性あり）、またはノードに Unified Communications Manager がインストールされていない（最も可能性あり）ことが想定されます。データベースに適切なレコードが格納されていないとロケールは機能しないため、ロケールのインストールは中止されます。 |

| メッセージ | 説明 |
|--|--|
| <p>[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/com/cisco/ipma/client/locales/maDialogs_<ll>_<CC>.properties.Checksum.</p> <p>[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/com/cisco/ipma/client/locales/maMessages_<ll>_<CC>.properties.Checksum.</p> <p>[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/com/cisco/ipma/client/locales/maGlobalUI_<ll>_<CC>.properties.Checksum.</p> <p>[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/LocaleMasterVersion.txt.Checksum.</p> | <p>このエラーは、システムがチェックサム ファイルの作成に失敗した場合に発生します。原因としては、Java 実行ファイル /usr/local/thirdparty/java/j2sdk/jre/bin/java が存在しない、Java アーカイブ ファイル /usr/local/cm/jar/cmutil.jar が存在しないか損傷している、Java クラス com.cisco.ccm.util.Zipper が存在しないか損傷していることなどが考えられます。これらのエラーが発生する場合でも、Unified Communications Manager Assistant を除いてロケールは引き続き正常に動作します。この場合、Cisco Unified Communications Manager Assistant では、ローカライズされた Unified Communications Manager Assistant ファイルの変化を検出できません。</p> |
| <p>[LOCALE] Could not find /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/LocaleMasterVersion.txt in order to update UnifiedCMAssistant locale information.</p> | <p>このエラーは、適切な場所でファイルが見つからない場合に発生します。最も可能性が高い原因として、ビルドプロセスのエラーが考えられます。</p> |
| <p>[LOCALE] Addition of <RPM-file-name> to the Unified Communications Manager database has failed!</p> | <p>このエラーは、ロケールのインストール時に発生した何らかの障害が累積したことにより発生します。これは、最終的な状態を示しています。</p> |

COP ファイルのインストールのガイドライン

インストールによっては、既知の不具合を修正する、または Unified Communications Manager に含まれていないが、使用したいカスタムデバイスのタイプに対するサポートを有効にするのに、COP ファイルをインストール後にインストールする必要があります。

COP ファイルをインストールする必要がある場合は、次のガイドラインに従います。

- 適切な COP ファイルをクラスタ内のすべてのノードにインストールします。クラスタ内の各ノードに新しいソフトウェアをインストールして、データベースをセットアップした後、この作業を実行します。
- COP ファイルをインストールしたら、サーバを再起動します。

- COP ファイルのインストール中に行った設定の変更をデータベースに上書きするため、Unified Communications Manager および/または IM and Presence Service を再起動します。

COP ファイルのインストール

北米番号計画（システムのデフォルト）以外の作成済みのダイヤルプランを使用する場合は、ダイヤルプランと共に COP ファイルをインストールする必要があります。

手順

- ステップ 1** Unified Communication Manager のパブリッシャノードで、この手順を開始します。Cisco Unified Communications OS の管理で、[ソフトウェアアップグレード (Software Upgrades)] > [インストール (Install)] を選択します。
[ソフトウェアのインストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ソース (Source)] フィールドで、[リモートファイルシステム (Remote File System)] を選択します。
- ステップ 3** [ソフトウェアのインストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade)] ウィンドウで、フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、「関連項目」を参照してください。
- ステップ 4** [次へ (Next)] をクリックします。
ウィンドウが更新され、使用可能なソフトウェアのオプションとアップグレードのリストが表示されます。
- ステップ 5** [オプション/アップグレード (Options/Upgrades)] ドロップダウンリストで、[DP COP] ファイルを選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
[インストールファイル (Installation File)] ウィンドウが開き、FTP サーバからファイルをダウンロードします。ウィンドウにダウンロードの進捗が表示されます。
- ステップ 6** [チェックサム (Checksum)] ウィンドウが表示されたら、そのチェックサムの値をダウンロードしたファイルのチェックサムの値と比較検証します。
- ステップ 7** [次へ (Next)] をクリックして、ソフトウェアアップグレードに進みます。
警告メッセージとして、インストールするために選択した DP COP ファイルが表示されます。
- ステップ 8** [インストール (Install)] をクリックします。
[インストール状況 (Install Status)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 9** [完了 (Finish)] をクリックします。
- ステップ 10** Unified Communication Manager サブスクライバノードで、この手順を繰り返します。クラスタ内の全ノードに COP ファイルをインストールする必要があります。

次のタスク

システムにダイヤルプランを適用する場合は、[事前作成済みダイヤルプランのインストール \(14 ページ\)](#)。

事前作成済みダイヤルプランのインストール

クラスターの最初にあるそれぞれの Cisco Unified Communications Manager ノードに国内の番号計画をインストールします。Unified Communications Manager publisher ノードから始めます。



(注) 北米（システムデフォルト）以外の国における国内の番号計画をインストールしている場合のみ、次の手順を実行します。

始める前に

作成済みダイヤルプランと共に COP ファイルをインストールします。詳細については、[COP ファイルのインストール \(13 ページ\)](#) を参照してください。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[コールルーティング (Call Routing)] > [ダイヤルプラン インストーラ (Dial Plan Installer)] を選択します。
- ステップ 2** 検索条件を入力して [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** インストールするダイヤルプランのバージョンを [利用可能なバージョン (Available Version)] ドロップダウンリストから選択します。
- ステップ 4** [インストール (Install)] をクリックします。
ステータスに、ダイヤルプランがインストールされたことが表示されます。
- ステップ 5** クラスターのサブスクリバノードごとにこの手順を繰り返します。

次のタスク

[Cisco CallManager サービスの再起動 \(14 ページ\)](#)

Cisco CallManager サービスの再起動

新しいダイヤルプランをインストールしている場合は、Cisco CallManager サービスを再起動する必要があります。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Serviceability インターフェイスで、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター - 機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Servers)] ドロップダウンリストから、Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。

CMの[サービス (Services)]領域で、[サービス名 (Service Name)]列に Cisco CallManager が表示されます。

ステップ3 Cisco CallManager サービスに対応するラジオ ボタンをクリックします。

ステップ4 [再起動 (Restart)] をクリックします。

サービスが再起動し、「サービスは正常に再起動しました (Service Successfully Restarted)」というメッセージが表示されます。

セキュリティの有効化

システムのセキュリティを有効にする場合は、Cisco CTL クライアントをインストールし、混合モードを有効にする必要があります。[アプリケーション (Applications)] > [プラグイン (Plugins)] ウィンドウから、Cisco Unified CM Administration で、CTL インストール ファイルをダウンロードできます。

混合モードが有効になると、システムは、認証に証明書信頼リスト (CTL) ファイルを使用します。CTL ファイルには、サーバごとのサーバ証明書、公開キー、シリアル番号、署名、発行者名、サブジェクト名、サーバ機能、DNS 名、および IP アドレスが含まれています。

CTL クライアントをインストールし、システムで混合モードを有効にする方法の詳細については、[Security Guide for Cisco Unified Communications Manager](#)を参照してください。

簡易ネットワーク管理プロトコルの設定

Cisco Prime Collaboration Assurance などのネットワーク管理システムを使用している場合は、Simple Network Management Protocol を有効にします。

始める前に

10 個を超える同時ポーリング クエリーは許可されません。推奨する最大トラップ宛先は 8 個です。それ以上は CPU の性能に影響します。この要件は、使用する OVA テンプレートに関係なく、すべてのインストールに適用されます。

手順

ステップ1 SNMP NMS をインストールし、設定します。

ステップ2 [コントロールセンター - ネットワーク サービス (Control Center - Network Services)] ウィンドウで、SNMP サービスが起動されたことを確認します。

ステップ3 Unified Communications Manager : [サービスの開始 (Service Activation)] ウィンドウで、Cisco CallManager SNMP サービスをアクティブ化します。Cisco Unity Connection のみ：自動的に Connection SNMP Agent サービスがアクティブになります。

ステップ4 SNMP V1/V2c を使用している場合は、コミュニティ スtring を設定します。

ステップ5 SNMP V3 を使用している場合は、SNMP ユーザを設定します。

- ステップ 6 トラップまたはインフォームの通知先を設定します。
- ステップ 7 MIB2 システム グループのシステム コンタクトとロケーションを設定します。
- ステップ 8 CISCO-SYSLOG-MIB のトラップ設定を行います。
- ステップ 9 Unified Communications Manager のみ : CISCO-CCM-MIB のトラップ設定を行います。
- ステップ 10 プライマリー エージェント サービスを再起動します。
- ステップ 11 NMS で、Unified Communications Manager のトラップ パラメータを設定します。

仮想マシン構成仕様の変更

次の手順に従って、Unified Communications Manager 仮想マシン (VM) 設定でのゲスト OS バージョンに変更を加えます。

手順

- ステップ 1 仮想マシンをシャットダウンします。
- ステップ 2 必要に応じて、vSphereにより、仮想マシンの設定を変更します。ゲスト OS と VM ハードウェアの互換性を更新できます。
 1. VM ハードウェアの互換性を更新 : 仮想マシンを左クリックします。[更新 (Updates)] をチェックします。[更新 (Update)] をクリックします。
 - (注) ホストがわからない場合は、[ステータスの確認] (Check status) をクリックし、[アップグレード (Upgrade)] をクリックして、ホストを照合します。
 2. ゲスト OS の更新 : [仮想マシン (Virtual Machine)] を右クリックし、>[設定の編集 (Edit Settings)] > [仮想マシンのオプション (Virtual Machine Option)] > [一般オプション (General Option)] > [ゲスト OS のバージョン (Guest OS Version)] の順に選択します。

- ステップ 3 仮想マシンの電源をオンにします。

(注) 実行中に仮想マシン設定を開くと、何らかの不一致がある場合、ESXi にたとえば次のような警告メッセージが表示されます。

警告 この仮想マシンに構成されているゲスト OS (CentOS 4/5 以降 (64 ビット)) は、現在実行中のゲスト (CentOS 7 (64 ビット)) と一致しません (The configured guest OS (CentOS 4/5 or later (64 bit)) for this virtual machine does not match the guest that is currently running (CentOS 7 (64 bit)))。ゲスト固有の最適化を可能にするために、正しいゲスト OS を指定する必要があります。

IM and Presence Service のインストール後の作業

IM and Presence Service の新しいクラスタまたは新しいノードをインストールする場合、インストール後にこれらの次の作業を実行します。



- (注) これらのタスクの多くは、[IM and Presence Service の設定および管理ガイド](#)で詳しく説明されています。注意を促されている箇所では、これらの作業を実行する方法の詳細に関するガイドを参照してください。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|---|--|
| ステップ 1 | リリースノートおよびリリースに付属している Readme ファイルを読みます。 | リリース ノートは、次の URL からダウンロードできます。リリースおよび任意の COP ファイルの要件の特徴を理解してください。 https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-release-notes-list.html |
| ステップ 2 | Cisco.com で IM and Presence Service にソフトウェアのアップデートやファームウェアのアップデートがないか確認します。 | ソフトウェアは、次の場所からダウンロードすることができます。 https://software.cisco.com/download/navigator.html?mdfid=280448682&i=rm |
| ステップ 3 | プレゼンス冗長グループを設定します。 | 詳細については、「 IM and Presence Service の設定および管理ガイド 」を参照してください。 |
| ステップ 4 | デフォルトのドメインを変更します。 | 詳細については、「 IM and Presence Service の設定および管理ガイド 」を参照してください。 |
| ステップ 5 | IM and Presence Service の IM アドレススキームを変更します。 | 詳細については、「 IM and Presence Service の設定および管理ガイド 」を参照してください。 |
| ステップ 6 | IM and Presence Service ノード名を変更します。 | 詳細については、「 IM and Presence Service の設定および管理ガイド 」を参照してください。 |

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|---------|---|---|
| ステップ 7 | プレゼンスゲートウェイとして Unified Communications Manage を設定します。 | 詳細については、「 IM and Presence Service の設定および管理ガイド 」を参照してください。 |
| ステップ 8 | Unified Communications Manage で SIP パブリッシュトランクを設定します。 | 詳細については、「 IM and Presence Service の設定および管理ガイド 」を参照してください。 |
| ステップ 9 | ユーザをサーバに割り当てます。 | 詳細については、「 IM and Presence Service の設定および管理ガイド 」を参照してください。 |
| ステップ 10 | サービスのアクティブ化 (18 ページ) | IM and Presence Service の重要なサービスをオンにします。 |

サービスのアクティブ化

次のサービスをアクティブにする必要があります。

- Cisco SIP Proxy
- Cisco Presence Engine
- Cisco XCP Connection Manager
- Cisco XCP Authentication Service

サービスをアクティブにするには、Cisco Unified Serviceability で、[ツール (Tools)] > [サービス アクティベーション (Service Activation)] を選択します。



(注) IM and Presence クラスタをインストールするサーバごとに、このタスクを実行する必要があります。

次の作業

これでシステムがインストールされました。ダイヤルプランの設定、ユーザのプロビジョニング、デバイスの登録およびインスタントメッセージとプレゼンスの設定などの作業を含む、システムの設定を続行する準備が整いました。システムの設定方法の詳細については、次のガイドを参照してください。

- 『[System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager](#)』

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。